

理 学 部

~ Faculty of Science ~

I 部数学科 (S)

数少ない実験がない学科であり、その代わりに小レポートが週に1回ほどある。一般科目は一年次に10科目ほど履修するのがよい。しかし教職課程を取っていると学期末にレポートがあり、履修する一般科目の数も増えてくる。進級するにあたって大切なことは毎回授業にしっかり出席し、板書を取ることである。

アルバイトは週4日ほどしている人もいるが、学業のことを考え週2、3日程度にしておくのが望ましい。またほとんどの人がサークル活動に参加している。

一年次の関門科目は微分積分学だけであるが、これは10単位もある。テスト勉強の方法としては、毎回休まず授業に出席してノートを取り、テスト前にノートを見直す。また過去問を集めて解いておき、わからないところは友達や先輩に聞く。過去問は同じ学科の先輩がいるサークルに入ると手に入れやすいが、サークルに入っていない人は友達にもらうなどして確実に手に入れておくのがよい。

I 部化学科 (K)

授業は真面目に聞いて復習をしていれば、そこまで難しく感じることはない。課題は多くはないが、小テストを行う授業が多く、これは成績に大きく関わるので毎回高得点を狙いたい。さらに、学期末に行われる試験の問題が小テストの中から出る授業もある。本学科で一番注意したいものは後期から始まる実験とそのレポートだ。実験にもよるが、多いときには10枚を超えることもある。また、レポートは手書きのものがほとんどで、時間も手間もかかるため計画的に進めるべきだ。放課後に図書館や食堂でレポートを作成する姿がよく見られ、授業の合間にしている学生もいる。

化学2は授業内容が難しいので、教科書と教授の著書を参考にしつつ授業に出席するといいたいだろう。試験にはA5の紙を持ち込むことができるのでそこに何を書き込むかも重要である。また、過去問が参考になる科目が多いため先輩や友人から入手しておくとう良い。

応用物理学科 (OB)

実験が多くある学科であり、慣れるまでが大変だろう。1つの実験を2週にわたり行うのでレポートは隔週で提出である。その他のレポート課題については力学演習で毎週出され、不定期で他の科目の課題もある。課題が多いためか、アルバイトは課題の妨げにならない程度にしている人が多いようだ。女子学生は1割程度の年もあり、女子学生の比率は低めの学科だろう。必修科目が多いため一般科目は週に3科目程が平均的である。関門科目には物理数学1、力学1、電磁気学1、基礎物理実験がある。試験に合格するためには授業内で解いた問題を何度も解き直すことが肝心だ。過去問はあった方がよいが、必須というわけではなく、授業によっては教授が過去問を配る場合もあるのでその時はその問題を繰り返し解くといい。実験については無遅刻無欠席にすべきで、絶対に写してはいけないが過去レポもあるので、参考にすると良いだろう。

II 部数学科 (2S)

課題やレポートは先生により異なり、毎回出される科目もあるが難易度は低めで量もレポート用紙1枚程度で済むものである。しかし、レポートの配点は低く出席点が無いことが多いため、普段から授業内容をしっかり理解し、試験に臨むことが大切だ。

一年次の関門科目は代数学1、解析学1、幾何学1、情報数学序論、数学概論であり、この内2科目以上落とすと留年してしまう。また代数学1、解析学1、幾何学1は講義と演習に分かれており、どちらも合格して初めて単位を修得することができる。

試験勉強の方法としては、最初に教科書とノートをひたすら読み、定義、定理、公理、数式、論理式の意味を理解することだ。これらが理解できていないとほとんどの問題が解けず、解けたとしても自分が何をしているのかが分からないままになるので、これらをしっかり理解した上で、演習問題や過去問に取り掛かるのが望ましい。

II 部化学科 (2K)

土曜日に実験があり、最初の授業で行われるガイダンスに出ないと実験を受けることができなくなってしまうので注意が必要だ。実験は3-5人の班で行うので話す機会も多く、自然と仲良くなりやすい。実験が毎週あるということはレポートも毎週ある。初めのうちは慣れないレポートに時間を取られてしまいがちなので、先輩のレポートを参考にしたり先生やTAに質問したりするのがいいだろう。関門科目は基礎物理化学、基礎無機化学、基礎有機化学の3科目あり、1科目でも落としたら留年が決まってしまうので気をつけてほしい。この他にも二年次までに修得しないと留年してしまう裏関門もあるので、一年次のうちに優先的に履修するのがおすすめだ。

どの科目も特別難しいわけではないので、同じ実験班の人や友達と協力して試験勉強をするなどして乗り越えていってほしい。

I 部物理学科 (B)

2週に1回実験が実施されるため、レポートの提出は隔週でなる。レポート課題は数時間でできてしまうものから、10時間以上かかるものまで様々だ。これらの実験とは別に物理数学や力学で簡単なレポートが出されることもある。

アルバイトは4月から始めている人もいるが、大学生活に慣れてくる後期やそれ以降から始める人も多い。また短期のアルバイトなどを活用して、課題に支障が出ない程度に抑えている人もいる。サークルにもほとんどの学生が所属していて、そこでも友達を作りたいという思いがあるようだ。

必修科目が多いため、一般科目は前期に週4科目ほど、後期には週2科目ほど取る人が多い。試験勉強は主に過去問と授業のノートを復習することが大切である。また、この学科は再試験を行わないのでしっかり準備しておきたい。過去問はサークルの先輩や友達経由でもらうことができ、教授が過去問をくれることも多い。

数理情報学科 (SJ)

数理情報科学科は1年を通して主に数学とプログラミングを勉強する学科である。クラスは2つに分けられていてレポートはクラスによって違うが平均して月3、4回出される。他の学科に比べてレポートが少なく、実験もないのでサークルやバイトをするのもいいだろう。しかし、授業で学んだことを毎回しっかりと身につけていなければ試験直前で辛い思いをすることになる。普段の授業でしっかりとノートを取り、毎日でなくとも週に一度の復習をしていれば進級は十分可能である。

関門科目は3つあり、このうちどれか2つを落としてしまうと留年が確定する。一番注意しなければならない科目はプログラミングである。この科目を落としている学生が多く、大学生になるまでにパソコンを使い慣れている人とそうでない人との差が出てしまう。分からないことがあればプログラミングに慣れている友達や先輩、先生に積極的に質問するのが得策だろう。

応用化学科 (OK)

前期はレポート課題が月に2つ程度出され、後期には週に1度の実験も加わり、そのレポートが毎週提出となる。また、レポート課題とは別の各授業の課題が毎週2つ程度ある。後期はどの科目も試験範囲が広く日程的にも大変で、高得点を取ることが難しいため前期の試験で点数を稼いでおいたほうが単位を修得しやすい。高得点を取るには授業のノートやプリント、宿題、小テストの復習をしっかりとやることだ。

前期は実験がなくアルバイトやサークルに精を出す人も多いが後期になると余裕がなくなってくるので注意したい。専門選択のある程度履修する人が多く、一般科目は少な目に抑える傾向が高い。関門は指定30単位のうち英語を含む16単位を修得すればいいので、二年に進級すること自体は比較的容易だと言えるが、有機化学1、無機化学1、物理化学1及び演習を落とすと二年次以降の続きの必修を履修できなくなるのでこれらに関しては絶対修得するようにしたい。

II 部物理学科 (2B)

実験は毎週行われ、課題は主に実験のレポートで提出期限は1週間と決められている。1日に2つの実験を行う週もあるので、慣れるまではレポートをこなすだけで精一杯になる可能性がある。関門科目は微分積分学、入門力学、入門電磁気学であり、これらのうち1科目でも落とすと進級できないので注意が必要である。試験を乗り切るにはただ公式や解き方を丸暗記するだけでなく、意味、概念、現象、原理をきちんと理解できるようになるまで毎日コツコツと勉強することが大切だ。友人と一緒に勉強をして、分からない所を無くしていくのがいいだろう。過去問は、試験がどのような傾向なのか、時間配分を考える際にとても役に立つので、是非入手したい。この学科は学業以外の時間も比較的確保しやすく、ほとんどの学生がサークルに所属していて、アルバイトをしている学生も多い。時間を有効活用することで有意義なキャンパスライフを送っていった欲しい。